

日本がこれから世界に果たすべき役割を考えよう

～援助される側から援助する側になった日本～

福井県坂井市立春江西小学校 教諭 井口 敬雄
社会科（12時間配当）
小学6年生（28名）
（前任校 平成18年度 福井市東安居小学校での実践）

はじめに

今回の実践は小学6年生の社会科における実践である。6年生の社会科では、子どもたちは歴史学習を行った後、公民的分野を経て、「世界の平和や日本の役割」について学習することになっている。

しかし、教科書（東書版）では、戦後日本が復興していく過程の中で、海外からの多くの支援や援助が行われたことに詳しく触れられていない。子どもたちは、戦後日本の復興のために海外からの支援や援助が行われていたことの事実を知らないまま、その後の「世界の平和と日本の役割」の小単元を学習しても、支援や援助の大切さ、あるいは支援や援助のために活躍している人たちの働きについての理解も深まらなないと考えられる。

そこで、二つの小単元の「新しい日本、平和な日本へ」と「世界の平和と日本の役割」を合わせ、海外からの支援と援助に焦点を当て学習活動を組み立てた。子どもたちは援助される側から援助する側になった日本の姿を学習することによって、海外からの支援や援助の大切さをより理解し、これからの日本が世界に果たすべき役割をより考えられるようになるのではないだろうか。

また、これらの学習を効果的に行うために、支援や援助で活躍した人物を取り上げた。子どもたちの興味・関心をより高め、この単元の理解をより深めるために効果的と考えた。

この実践を通して、社会科という枠の中で、国際理解につながるいくつかの社会事象を海外からの支援や援助という観点を通して、子どもたちに、これから世界の人々とどのように生きていったらよいか（共生）について深く考えさせた。

1 小単元名 「新しい日本、平和な日本へ」 「世界の平和と日本の役割」

2 小単元の目標

- 戦後の日本の復興と発展に関心を持ち、戦後の復興を願い努力してきた人々の活動や、日本が復興するために海外からの多くの支援、援助があったことについて意欲を持って調べたり、発表したりしようとする。（関心・意欲・態度）
- 現在、日本が行っている海外に対する支援、援助等について意欲を持って調べたり、発表したりしようとする。（関心・意欲・態度）
- 戦後、日本は復興するにあたって、国民の努力はもとより、海外からの援助もその大きな役割を担っていたことを考え、今後、日本が世界に果たす役割を考えることができる。（思考・判断）
- 身近な人から聞き取り調査をしたり、デジタルコンテンツやインターネット、図書などの資料を目的に応じて活用したりすることができる。（観察・資料活用・技能・表現）
- 太平洋戦争で廃墟となった日本は、民主的な社会の仕組みを整え、平和な国家として再生し、独立や国連加盟を果たしたことや、急激な経済成長による国民生活の向上により、戦後急速に復興することができた。それらの実現には、国民が復興に対して大きな努力をしたことや、海外からの援助等が重要な役割を果たしたことがわかる。（知識・理解）
- 現在、援助される側から援助する側になった日本が、海外にどのような援助や協力をを行っているかを青年海外協力隊等の活動を通して知る。（知識・理解）

3 小単元について

1945年、日本は、アメリカ軍による空襲により多くの都市が廃墟となり、終戦を迎える。戦後の日本は、廃墟と食糧難から出発をした。しかし、戦後19年で平和の祭典である東京オリンピックを開催し、全世界に日本の復興と平和をアピールすることができた。

このように、日本が急速な復興を成し遂げることができたのは、大きく分けると三つの要因が考えられる。第一に、復興に向けての様々な改革を次から次へと行ったからである。日本は、日

本国憲法を制定し、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の三大原則を掲げたり、財閥の解体や農地改革などの民主化を行ったりして、大改革を行った。これらの改革は復興に向けての大きな礎となった。

第二に、日本は国内体制を確立することによって、独立が認められ、国際連合に加盟することができたからである。日本は再び世界の仲間入りを果たすことができた。

第三に、国内の産業が復興するとともに、国民生活も向上したからである。1951年の経済白書の「もはや戦後ではない」という言葉は、日本の急速な復興を表している。

しかし、このような日本の急速な復興は、日本人の努力だけで成し遂げることはできなかった。日本の戦後の悲惨な状況を見た海外から、緊急食糧援助をはじめとする人道的援助や、独立後の日本に対する世界銀行からの融資など、様々な海外からの支援や援助があった。これらの支援や援助によって、日本は急速な復興を成し遂げることができた。

○ララ物資について

本単元では、海外からの緊急援助としてララ物資を取り上げる。ララ物資とは、終戦後、日本の悲惨な現状を知った、アメリカ在住の日系人浅野七之助の献身的な尽力によって実現した援助物資のことである。浅野は日本の人々を飢餓から救うために、北南米の日系人に物資や資金の提供を呼びかけた。それでも資金が足りないので、アメリカのいろいろな関係機関に資金援助を要請した。しかし、敵対国であった日本に援助をすることに対して、同意を得ることは非常に難しかった。

そのような状況の中で、浅野はアメリカのボランティア団体や宗教団体にねばり強く援助要請の交渉を行い、ようやくいくつかの団体から同意を得ることができた。それらの資金や物資をもとに、1946年11月に第1便の援助物資を積んだ船が横浜に到着し、その物資をもとに、都市部の小学生に向けての給食が開始される。1952年までに約200隻の船が援助物資を積んで太平洋を渡った。

援助物資の中心は食糧であり、とりわけ脱脂粉乳が多く日本に運ばれた。脱脂粉乳は、カルシウム分が豊富なので、子どもたちの体格向上に繋がるということで日本からの要請に応じて送られたものである。

○世界銀行について

援助の大きな二つ目の柱として、世界銀行も取り扱う。日本が戦後、国際社会に復帰した後、世界銀行から、社会資本の充実のために様々な融資が行われた。黒部第四ダム、新幹線、東名高速、名神高速などの建設は、戦後の復興のシンボルになった。これらの社会資本の充実は、国民生活を一層向上させ、戦後の復興の大きな要因ともなった。

○国際協力機構（JICA）

現在、日本が発展途上国に対して行う援助の窓口になっているのが、国際協力機構である。この機構の大きな事業の一つが青年海外協力隊派遣制度である。若者が自分の得意とする分野で発展途上国の発展のために協力するというものである。現在、海外に対する協力活動の大きな柱となっている。

これらの援助の学習を通して、日本の急速な復興は国民の努力によることが大きいことが、その根底には海外からの支援や援助があったからこそ可能であったことを理解させ、今後日本が世界に果たすべき役割も考えさせたい。

4 児童について

男子14名、女子14名、合計28名の学級である。社会科の学習に対しては、興味関心が高く、積極的に学習しようとする姿勢が見られる。単元ごとに分かったことをキーワードを中心にノートにまとめたり、1分間スピーチで発表したりするという活動を好む。

これらの活動を通して、子どもたちは友だちの発表を聞きながら、自分のまとめ方がそれでいいのかということを常に考えるようになった。友だちの発表を聞くことが大きな刺激になっているようである。

しかし、社会的な事象の因果関係を予想し、その予想に従って検証していくのは苦手である。その原因は検証のための資料活用の力が不十分であるために、自分なりの考えを導き出せないからである。

この単元では、検証のための資料探しに、十分時間をかけさせたい。また、資料探しがスムーズにいくために、教師や図書館司書からの適切なアドバイスをもとに、取り組ませたいと思う。

また、本校は昨年度までメディアの活用の研究を行ってきた。子どもたちはコンピュータ操作に慣れており、コンピュータを活用した学習を好む。

5 指導について

（1）興味関心を高めるための工夫

○デジタルコンテンツの活用

子どもたちが学習をするうえでの資料として、デジタルコンテンツを活用している。インター

ネット上の画像、グラフ、動画、また、プレゼンテーションソフトで作った自作教材などを、あらかじめ教師側で用意する。

また、子どもたちに、調べて分かったことなどをコンピュータを利用してまとめさせ、それらを使ってプレゼンテーションも行った。

デジタルコンテンツは子どもたちにとって視覚的に分かりやすいので、子どもたちの興味関心を高め、同時に学習内容の知識理解を深めることにも優れている。

○課題別グループによる問題解決学習

学習課題を解決する際、子どもたちに自分の興味関心のある課題を選択してグループをつくらせ、協働で課題を追究させるようにする。課題別グループによる問題解決学習を展開することにより、子どもたちの学習意欲を高めたいと考えている。さらに、子どもたちが学習課題を主体的に解決できるように、様々な資料（本、人、インターネットなど）を提示したり、体験的活動を導入したりするなどの支援をしたい。

○デザインマップの導入

単元の導入や単元のまとめにデザインマップを用いた。デザインマップとは学習内容のキーワード等を、時系列や関連性を考えながら並べて図式化する作業である。子どもたちは図式化することになるので、大変興味関心を持って行う。これらの作業を単元の導入で教科書をもとに行ったり、単元のまとめとして行ったりした。学習した内容を線でつなぎ再構成することにより、それぞれの社会的事象を関連させることができる。また、問題把握の段階で作成したデザインマップと、単元のまとめの段階で作成したものを比較することにより、学習課題に対する理解の変容がよくわかる。

○1分間スピーチ

子どもたちは、朝の会や授業で、感想や調べて分かったことなどを1分間スピーチの形式で発表している。発表の際には必ずその根拠を示し、発表後には聞き手からの質問に答えるという1分間スピーチを行っている。友だちの前で発表することになるので、少しでもよい発表がしたいという気持ちでスピーチに取り組む。このことが子どもたちの学習課題に対する興味関心を高めている。これらの活動を通して、自分の考えを分かりやすくまとめようとする意識も育ってきた。

（2）社会的な思考を深めるための工夫

○四段階の思考過程

社会科の学習で四段階の過程を取り入れている。問題把握、事実調査、関係考察、発展追究という四段階の過程を通して、子どもたちの社会的な思考を深めることができる。

○ディベートの活用

社会科では、発展追究の段階でディベートも行ってきた。子どもたちに価値判断を迫る場合にディベートは有効な手段である。例えば、5年生の工業の学習で、「日本は工業を発展させるために、どんどん輸出を行うべきである」というテーマで行えば、今までの学習を振り返り、自分なりの価値判断を行うことになる。これらの過程を通して、より社会的な思考を深めることになる。

○人物によりそった学習

歴史学習では、特定の人物に焦点を当て、その人から学び、その人の生き様に共感し、その人の業績を通して、社会的な見方や考え方を養うことを目指している。

本単元では、浅野七之助に焦点を当てる。「敵対国であった日本が深刻な食糧不足に陥っている状況を、在米日系人として、また、同じ日本人として何とか救済したい」という浅野氏の博愛に満ちた生きざまや努力に共感させたい。困難や苦境に直面したとき、事実を動かしていくのは人間知であり、歴史をつくり出す大きなエネルギーになる。

ゲストティーチャーから、戦争体験の生の話を直接聞くことにより、子どもたちに戦争の悲惨さや国民の努力について実感を持たせるとともに、社会的な見方や考え方も養いたいと思う。

また、JICAの専門家として働いた方から直接現在日本が行っている海外協力のお聞きすることによって、子どもたちにそれらの仕事の難しさや喜びを感じ取らせたいと考えている。

	指導内容	資料・準備物	教師のかかわり
問題把握 (2h)	<p>終戦直後の様子</p> <p>○ゲストティーチャーから終戦直後の日本や福井の様子の話を聞く。 ・福井空襲で福井の町は焼け野原になった。 ・食糧不足で生活に困った。</p> <p>東京オリンピックの様子</p> <p>○ゲストティーチャーから東京オリンピックの様子を聞く。 ・世界から多くの選手が参加した。 ・世界に平和をアピールできた。</p> <p>・1945年 終戦 ・1959年 五輪開催決定 ・1964年 東京オリンピックの開催</p> <p>○戦後から19年後のオリンピック開催までに急速な復興があったことを知る。 ・テレビを通して日本中が盛り上がった。</p> <p>なぜ日本は戦後19年でオリンピックが開催できるほど、急速に復興できたのだろうか。</p>	<p>○写真、VTR (終戦直後の日本の様子)</p> <p>○VTR (東京オリンピック)</p>	<p>○終戦後の日本と東京オリンピックの対比をさせる。</p> <p>○戦争中に東京オリンピックが中止になったことを教える。</p>
事実調査 (3h)	<p>○学習課題について予想する。</p> <p>○調べたいテーマを決め、班ごとに調べ方について話し合う。</p> <p>○班ごとに調べたいテーマを調べる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="199 638 391 840"> <p>A 平和で民主的な国家</p> <p>ア 日本国憲法の制定 イ 財閥の解体による民主的革新</p> </div> <div data-bbox="422 638 614 840"> <p>B 国際社会への復帰</p> <p>ウ サンフランシスコの講和会議 エ 日本国連加盟 オ 国際連合の加盟</p> </div> <div data-bbox="646 638 837 840"> <p>C 国民生活の向上</p> <p>カ 朝鮮動乱等の復讐 キ 戦後の復興、生活の向上 ク 朝鮮動乱等の復讐、生活の向上</p> </div> </div> <p>○調べたことを、コンピュータを使ってまとめ発表する。</p> <p>○各班の発表をもとに、年表を作る。</p> <p>国民の努力、海外からの援助</p>	<p>○パソコン、プロジェクター、スクリーン</p>	<p>○児童が主体的に調べ活動提案する。ネット上の資料(本などの資料)</p> <p>○班ごとに調べたことを発表させる。</p>
関係考察 (2h)	<p>海外からの緊急援助</p> <p>○なぜ戦後の日本は食糧不足の問題を解決することができたのかを考える。</p> <p>○課題について予想する。</p> <p>○ララ物資等の緊急援助について知り、年表にまとめる。</p> <p>・ララ物資 ・その他 (ガリア物資、エロア物資、ユニセフなどの援助)</p> <p>○戦後、海外からの様々な緊急援助があったことを知る。 ・我が国にとってもどのような効果があったのかを検証する。 ・食糧援助や医薬品の援助により日本人の生活が向上した。 ・大人たちは食糧不安が無くなり仕事に打ち込むことができた。 ・その他</p> <p>世界銀行からの融資</p> <p>○海外から食糧以外にどのような援助や支援があったかを予想し調べる。</p> <p>・東海道新幹線 ・名神高速、黒四ダムなどの建設</p> <p>○日本は独立の回復後に、世界銀行より融資を受けて様々な社会資本等が建設されたことを、年表にまとめる。</p> <p>太平洋戦争で壊滅となった日本は、民主的な社会の仕組みを整え、平和な国家として再生し、独立と国連加盟を果たした。急速な経済成長による国民生活の向上に、戦後急速に復興することができた。それらの実現のためには、国民が復興に對して大きな努力をし、海外からの援助等が重要な役割を果たした。</p> <p>○戦後、日本が急速に復興できたわけを、今までの学習からまとめる。</p>	<p>○写真 (脱脂粉乳による給食の様子)</p> <p>○プレゼンテーション (浅野七之助に関する資料)</p> <p>○グラフ (小学6年生の平均身長、体重の推移)</p> <p>○VTR (食糧不足の解消から仕事に専念することの証言)</p> <p>○グラフ (医薬品援助に関する)</p> <p>○写真 (黒四ダム、東海道新幹線、名神高速など)</p> <p>○表 (案件ごとの融資金額)</p>	<p>○検証のための資料をプレゼンテーションソフトを使って提示する。</p> <p>○世界銀行より多額の融資が行われ、それが続いたことを知らせる。</p>
発展探究 (5h)	<p>これからの日本が世界に果たすべき役割を考えよう</p> <p>タンザニアでの国際協力</p> <p>○タンザニアで活躍された田村専門家にインタビューを通して、国際協力の実際について知る。</p> <p>世界の国々を知る</p> <p>○世界地図に国名を記入し、世界の国々を知る</p> <p>日本の国際協力</p> <p>○ハンガーマップから食糧事情が悪い国があることを知る。 ○一人あたりのGDPが少ない国と食糧事情が悪い国との関連を知る。 ○日本の国際協力の実際とJICAの活動を知る。</p> <p>これからの日本</p> <p>○これからの日本が世界に果たすべき役割は何かを考える。 ○もし自分が青年海外協力隊に参加するならどのような活動をしたいか考える。</p> <p>日本が戦後急速に復興することができたのは、海外からの支援や援助等が大きな役割を果たした。日本は援助された経験をもとに発展途上国等に対して、人的・経済的な協力を通して、世界の平和に貢献しなければならない。</p> <p>○これらの学習でわかったことをまとめる</p>	<p>○パソコン、プロジェクター</p> <p>○世界地図の白地図</p> <p>○図 (ハンガーマップ、一人あたりのGDP)</p> <p>○プレゼンテーション (日本の国際協力)</p>	<p>○教師がインタビューの質問役として、リードしていく。</p>

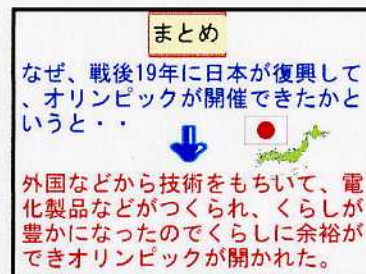
7. 授業の概要と子どもの反応

第1～5時 戦後19年でオリンピックが開催できるほど、急速に復興できたわけ。

①内容

第1時で、子どもたちはゲストティーチャーから終戦直後の日本や福井の様子を聞いたりして、戦後の日本が廃墟や食糧不足などの厳しい状況からスタートしたことを知った。

第2時では戦後19年で平和の祭典であるオリンピックを日本で開くことができ、急速な復興を世界にアピールできることができたことも知った。その後、なぜ日本は急速に復興することができたかという課題に対して、グループごとに調べ、それらをパソコンのプレゼンテーションソフトを使って、発表した。



＜それぞれのグループで調べ発表した内容の一部＞

第6時 終戦直後の日本（ララ物資について）

①内容

子どもたちが調べた日本が戦後、急速な復興を遂げた理由の中で、あまり触れられなかったが大きな要因であった海外からの支援や援助に焦点を当てた。その中でも、海外からの緊急援助としてララ物資を取り上げた。ララ物資とは、終戦後、日本の悲惨な現状を知った、アメリカ在住の日系人浅野七之助の献身的な尽力によって実現した援助物資のことである。浅野は日本の人々を飢餓から救うために、北南米の日系人に物資や資金の提供を呼びかけた。それでも資金が足りないで、アメリカのいろいろな関係機関に資金援助を要請した。しかし、敵対国であった日本に援助をすることに対して、同意を得ることは非常に難しかった。

そのような状況の中で、浅野はアメリカのボランティア団体や宗教団体にねばり強く援助要請を行い、ようやくいくつかの団体から援助の同意を得ることができた。それらの資金や物資をもとに、1946年11月に第1便の援助物資を積んだ船が横浜に到着し、その物資をもとに、都市部の小学生に向けての給食が開始される。1952年までに約200隻の船が援助物資を積んで太平洋を渡った。

援助物資の中心は食糧であり、とりわけ脱脂粉乳が多く日本に運ばれた。脱脂粉乳は、カルシウム分が豊富なので、子どもたちの体格向上に繋がるということで日本からの要請に応じて送られたものである。

この授業では、浅野七之助の献身的な努力に焦点を当てる。「敵対国であった日本が深刻な食糧不足に陥っている状況を、在米日系人として、また、同じ日本人として何とか救済したい」という浅野氏の博愛に満ちた生きざまや努力に共感させたい。困難や苦境に直面したとき、事実を動かしていくのは人間知であり、歴史をつくり出す大きなエネルギーになる。この浅野七之助の活躍を通して、困っている国々に対する支援や援助について考えさせる契機とした。



＜第6時の板書＞

②子どもの反応

- ・もし、戦後の日本に海外からの援助がなかったら、今、私たちがいないかも知れません。多くの方が助かったのは、海外からの援助のおかげだと思います。
- ・戦後、短い期間で復興できたのは、浅野七之助さんをはじめ、いろんな人の心が重なって復興に取り組んだのおかげだと思います。

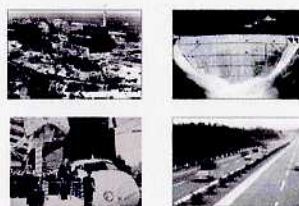
第7時 世界銀行について

①内容

援助の大きな二つ目の柱として、世界銀行も取り扱う。日本が戦後、国際社会に復帰した後、世界銀行から、社会資本の充実のために様々な融資が行われた。これらの融資で建設された黒部第四ダム、新幹線、東名高速、名神高速などは、戦後の復興のシンボルになった。これらの社会資本の充実は、国民生活を一層向上させ、戦後の復興の大きな要因ともなった。

本時の海外からの援助の学習を通して、日本の急速な復興は国民の努力によることが大きい、その根底には海外からの支援や援助があったからこそ可能であったことを理解させ、今後日本が世界に果たすべき役割も考えさせたい。

世界銀行からの融資



②子どもの反応

- ・新幹線や高速道路などの建設費の一部が世界銀行の融資によって建設されたとは知りませんでした。その返済が1990年まで続いていたとは驚きでした。
- ・日本は援助される側から援助する側になった数少ない国であると聞いてびっくりしました。

第8時 タンザニアでの国際協力（田村専門家にインタビュー）

①内容

子どもたちは田村専門家から、タンザニアにおける国際協力についてのお話を聞くことによって、国際協力のすばらしさや難しさを理解させ、今後の日本が世界に果たすべき役割は何かを考える契機とさせた。

今回は教師側から田村さんにインタビューするという形式で行った。また、質問と質問との間にタンザニアに関するクイズを入れて、子どもの興味関心が持続するような工夫をした。

田村専門家の情熱的な話術で、子どもたちの国際協力に対する興味関心を十分高めてくれた。



<田村専門家>

②子どもの反応

- ・私が心の残ったことは田村さんがタンザニアの人たちに600円を貸して、それをタンザニアの人たちが1年かけて返したことです。タンザニアの人たちもがんばって、国を発展させていって欲しいと思いました。
- ・私が心に残ったことは、田村さんが大切にしていたことで、「村人を信じる」、「一緒に考える」、「『できること』・『やりたいこと』をする」、ということを知ってとても感心しました。

第9時 世界の国々を知ろう

①内容

世界の国々を調べたり、統計を見たりするためには、世界にどんな国があるかなどが子どもたちの知識になくては、効果があまりない。ここでは、今後の学習に必要な世界の国々を白地図の中に記入させていくという活動を通して、世界の国々を覚えさせた。

第10時 日本の国際協力の実際（青年海外協力隊を知ろう）

①内容

子どもたちは、ハンガーマップから食糧が十分に足りている国と不足している国が存在することを学ぶ。その要因として世界の貧困の問題を、国民一人あたりの国内総生産の比較の図から、先進国と発展途上国の存在を知った。

その後、日本が戦後海外から受けた援助の歴史を復習し、日本が海外からの援助によって、復興したことをもう一度押さえた。

次に、私自身がタンザニア研修で出会った青年海外協力隊の方々を提示し、現在多くの青年が海外に発展途上国に渡り、ボランティア活動を行っていることを知った。

そこで、今回の中心発問である「なぜ、日本はお金や物をあげる援助よりも、青年海外協力隊の派遣に力を入れているのだろうか。」と問うことにより、日本が現在行っている国際協力の意義を考えさせた。

②子どもの反応

- ・現在、日本が海外に援助や協力を行っているのは、戦後海外からの援助を受けて復興した恩返しの意味で協力しているのだと思う。
- ・日本が戦後復興したように、貧しい国々の人たちも自分たちの力で発展して欲しいので日本が協力しているのだと思う。
- ・お金や物をあげるだけの援助では、その国の人たちが努力しなくなるので、青年海外協力隊のような協力が必要だと思う。

第11時 これからの日本（自分ができる海外協力を考えよう）

①内容

今までの学習を通して、もし自分が青年海外協力隊に参加してどんな活動ができるかを考えさせた。そして、これから日本が行っていかなければならない海外協力について、子どもたちに考えさせるきっかけを作った。

②子どもの反応

- ・私は、教育で協力したいと思います。教育が進めば、将来自分の国がどのようにすれば発展できるかを考えられるようになるからです。また、日本の文化も知って欲しいからです。
- ・私は、勉強やスポーツなどを教えてあげたいです。貧しい国は勉強やスポーツをあまりする余裕がないからです。
- ・私は、農業を教えたいと思います。作物の種を育てる技術が進めば、その国はずっとそのその作物を育てていくことができるからです。

8. 成果と課題

今回の実践では、戦後の日本が急速に復興できた要因の一つとして、海外からの支援や援助に焦点を当てて学習を構成した。子どもたちは日本が復興できたわけを海外からの援助があったおかげで復興することができたという視点で戦後の歴史を捉えさせ、「援助される側から、援助する側に変った日本。日本がこれから世界に果たすべき役割を考えよう」というテーマで指導計画を立てた。

戦後史などを学ぶ時には、人物を通して学ぶことが少ない。そのため、その時代の人の生き様を通して、人々の願いなどを知ることができない。今回の実践では、まず第1に浅野七之助という人物を通して、彼の日本の復興にかける願い。第2に JICA の専門家である田村賢治さんにゲストティーチャーとして来校していただき、タンザニアの発展のための国際協力にける情熱。第3にタンザニアで活躍する青年海外協力隊の方々の活動。子どもたちは、人物を通して支援や援助にける願いを知ることによって、社会的な見方や考え方を養うことができたのではないだろうか。

反省として、社会科の学習で取り扱ったため、教科書の進度と田村専門家の来校がうまく合わず、中途半端になってしまった。特に、田村専門家の来校が「新しい日本、平和な日本」の単元と「世界の平和と日本の役割」の単元との間になり、田村専門家のお話を聞いた後、しばらく期間が空いてしまった点が残念である。

しかし、そんな状況の中でも、田村専門家の話術で子どもたちの国際協力に対する興味関心を十分高めてくれたのが、この実践を行う上でとてもありがたかった。

また、後半の部分で取り扱った青年海外協力隊では、教師側からの一方的な説明が多かったので、子どもたちにとっては印象に残ることが少なかったのではないかという気がする。青年協力隊の方々の生の声を、子どもたちに聞かせ、子どもたちの興味関心を大いに高めればよかったのではないかと思っている。

今回の実践では、二つの小単元を、海外からの支援や援助に焦点を当て、学習を構成した。子どもたちは、二つの小単元を同じ視点で考え、効果的に学習することができたのではないだろうか。

<資料> 第6時の指導案

① 本時の目標

ララ物資等の海外からの緊急援助は、国民生活の安定をもたらし、戦後の急速な復興の大きな原動力になったことを理解できる。

② 本時の準備物

脱脂粉乳で作ったミルク、パソコン、プロジェクター、インタラクティブユニット（電子黒板）

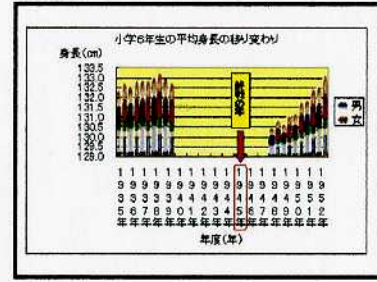
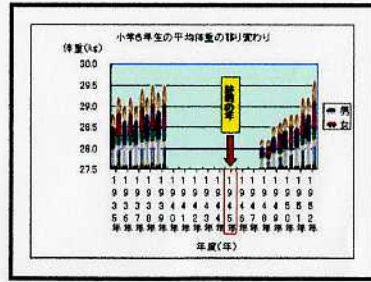
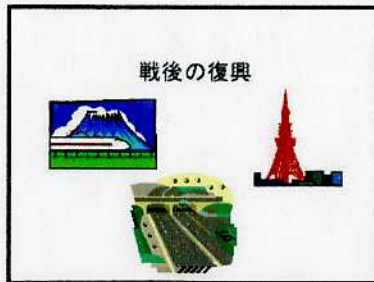
③ 本時の学習指導過程（本時6／12）

学 習 活 動	資料・準備物	教師のかかわり【目標】
<p>終 戦 直 後 の 様 子</p> <p>○終戦後の日本の食糧事情を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配給制、買い出し列車、闇市 ・深刻な食糧不足 ・多くの人たちが空腹に耐えていた <p>○学習問題をつかむ。</p> <p>戦後の日本は、こんなに深刻な食糧不足だったのに、なぜ食糧不足の問題を解決することができたのだろうか。</p> <p>○学習問題を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き地を畑にしたから。 ・外国から輸入したから。 <p>○ララ物資について調べる。</p> <p>ララ物資について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ララの正式名称は「アジア救済公認団体」 ・1946年11月、第1便が横浜港に入港 ・食糧、医薬品、衣料などを援助 ・1947年1月、援助物資によって児童への給食開始 ・1952年までに約200隻の船が太平洋を渡る <p>○ララ物資等の緊急援助が果たした役割を検証する。</p> <p>◇空腹からの解放（子ども、大人）。</p> <p>◇仕事に専念できるようになった。</p> <p>◇子どもの体格の向上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱脂粉乳を試飲し確かめる。 ・あまりおいしくない。 ・栄養がありそうだと。 <p>海外からの緊急援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食糧援助（脱脂粉乳・小麦・缶詰等） ・医薬品 ・衣料品 など ユニセフからの援助 <p>○戦後アメリカが敵対国であった日本に援助したわけを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそうだったから。 ・日本を早く立ち直らせるため。 <p>ララ設立に活躍した浅野七之助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の中心人物はアメリカ在住日系人 ・アメリカのボランティア団体や宗教団体に援助要請 ・北南米の日系人とアメリカの宗教団体等が活動資金や物資を提供 ・浅野の努力によってアメリカからの援助開始 <p>○浅野七之助にあてた手紙を書くことによって、緊急援助が果たした役割をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅野七之助のおかげで食糧不足問題を解決できた。 ・日本は食糧不足問題を解決できたので、日本は復興することができた。 <p>浅野七之助などの尽力で実現したララ物資等の海外援助により、戦後の日本は食糧不足の問題を解決することができ、急速に復興することができた。</p> <p>○次時の予告を知る。</p>	<p>・写真（戦後の日本の食糧不足の様子）</p> <p>・年表（今まで学習したこと）</p> <p>・グラフ（小学6年生の平均身長、体重の推移）</p> <p>・プレゼンテーション（ララ物資）</p> <p>・写真（戦後の給食の様子）</p> <p>・手紙（食糧援助に感謝して書かれた）</p> <p>・VTR（食糧不足の解消から仕事に専念できるようになったことの証言）</p> <p>・グラフ（小学6年生の平均身長、体重の推移）</p> <p>・表（脱脂粉乳と牛乳の栄養価の比較）</p> <p>・プレゼンテーション（浅野七之助）</p> <p>・パソコン・プロジェクター・スクリーン ・インタラクティブユニット ・ソフト（パワーポイント） ・スピーカー</p>	<p>○終戦直後の写真を見せて、戦後は廃墟と食糧不足からのスタートしたことを意識付けさせる。</p> <p>○食糧援助がなければ100万人が餓死する可能性があったことを告げる。</p> <p>○平均身長や体重が向上していることから食糧不足が改善されたことを理解させる。</p> <p>○戦後、日本には様々な海外からの援助が行われたが、ここでは中でもララ物資を取り上げる。</p> <p>○今まで書かれてきた年表にララ物資を書き入れさせる。</p> <p>○緊急援助の果たした役割を資料を使って検証させる。</p> <p>○緊急援助物資の中心は脱脂粉乳であったことを教える。</p> <p>○脱脂粉乳を試飲させることで、ララ物資果たした役割を実感させたい。</p> <p>○海外からの緊急援助が、戦後の食糧不足問題の解決に大きな役割を果たしたことを理解させる。</p> <p>○ララ物資以外の援助としてユニセフからの援助もあったことを教える。</p> <p>○敵対国が、なぜ援助したのかを考えさせることで、児童を揺さぶる。</p> <p>○浅野七之助の尽力によってララが設立されたことを知らせる。</p> <p>○日本が復興できたのは、海外からの援助やそれを支えた人々の努力のおかげで達成できたことに気づかせる。</p> <p>○手紙を数人の児童に発表させる。</p> <p>○次時は食糧援助の他にどのような援助や支援があったかを詳しく学習するということを告げる。</p>

④ 授業の観点

ララ物資や浅野七之助の資料、脱脂粉乳の試飲は、戦後の日本が食糧不足の問題を解決し、急速に復興することができたことを理解するための手立てとして有効であったか。

<資料> 第6時に使用したプレゼン資料



ララ物資について①
ララの名前の由来
『アジア救済公認団体』の英語名
「Licensed Agency
for Relief in Asia」
の頭文字から LARA (ララ) と
呼ばれる

ララ物資について②

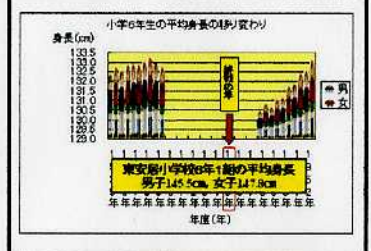
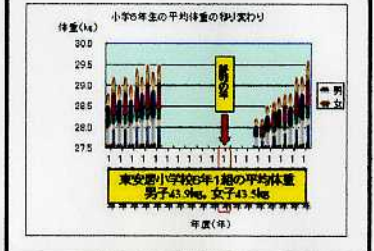
- 1946年11月30日、横浜港に援助物資を積んだ第1便の船が入港
- 第1便の援助物資は、食糧、衣料、医薬品、計450トン



ララ物資について④

- 1952年までに約200隻の船が太平洋を渡る
- 1949年にはユニセフからの援助も始まる

ありがとう
おいしい、おいしいミルクをありがとう。
わたしたちは毎日毎日パンと、あまいあまいミルクで昼食をすましています。
わたしたちはミルクを飲むようになってから体重がどんどん増えてきました。みんな喜んでミルクを飲んでます。
わたしたちはおいしいミルクを飲んで、一生懸命運動や勉強(に)はげんで今に立派な人になるように心がけます。そしてこのことを決して忘れません。
～海外から運ばれたミルクは給食に飲んだ日本の子どものための平和です～



浅野七之助さんにインタビュー

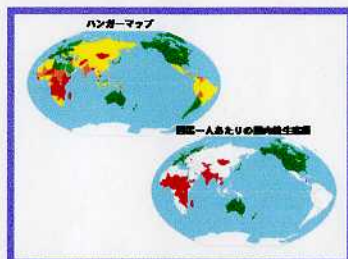
・生活に困っている日本人を助けた。
・日系人に資金や物資の提供を要請し、アメリカの団体にも協力を呼びかけたんだ。
・最初、アメリカの人たちは、戦争で戦った日本に、援助することに賛成してくれなかった。

・アメリカの団体に、何回もねばり強く交渉したんだよ。
・努力のかいがあって、アメリカの団体も協力してくれたんだよ。
・1946年(年)にようやく1回りの船が、食糧、医薬品、衣料品を積んでアメリカを出発したんだよ。

・援助物資で給食が始まり、子どもたちが喜んでいたら聞いて、とてもうれしかったね。
・わたし1人の力じゃないよ。多くのアメリカ人や日本人の協力があってからだ。

<資料> 第10時に使用したプレゼン資料

世界の平和と日本の役割



日本が戦後、海外から受けた援助

・食糧援助 (東洋炭灰の輸入と米穀の輸出)
 国民の努力と海外からの援助によって、戦後日本は復興することができた。
 世界銀行からお金を借りる (道路、新幹線、高速道路)

現在、日本は海外にどんな援助をしているのだろうか。

- ・食糧援助
- ・災害に対する緊急援助
- ・技術協力
- ・医療援助
- ・道路、港湾等整備
- ・資金協力 など

坂本隊員 (理数科教師)

中学校の数学の教師として、英語を使って生徒に教えている。

中沢・日野間隊員 (エイズ対策)

HIV (エイズ) の感染予防や女性の地位向上のために、村人に指導やアドバイスを行っている。

他にも、教育・文化、農業、コンピュータ、村営指導などで多くの青年海外協力隊が活躍中である。現在、タンザニアでは71名の隊員が活躍中。世界中で約2500名が活躍中 (2006年11月現在)

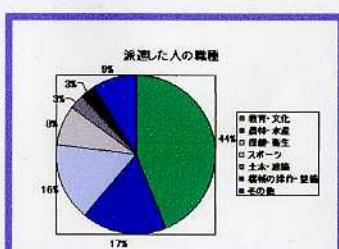
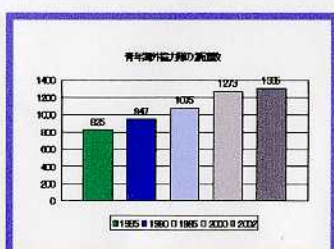


岩佐隊員 (図書館司書)

図書室のない学校を訪問して、読み聞かせや図書の貸し出しを行い読書の楽しさを教えている。

油布隊員 (小学校教師)

小学生や幼稚園児にタンザニアの学校の先生と一緒に勉強を教えている。



青年海外協力隊の派遣国

◆アジア	689人
◆中・南アメリカ	642人
◆アフリカ	602人
◆オセアニア	240人
◆中近東	141人
◆ヨーロッパ	123人

2003年9月現在

なぜ、日本はお金や物をあげる援助よりも、青年海外協力隊の派っけんに力を入れているのだろうか。

お金や物はなくなれば終わり

途上国の発展 → **世界平和**

人を育てた能力

<参考図書>

No	タイトル	著者・編者	発行
1	なつかしの給食 献立表	アспект編集部	アспект
2	国際協力ちょっといい話 http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/nyumon/episode/story/1_2.html	外務省	
3	国際協力機構 http://www.jica.go.jp/Index-j.html	JICA	
4	6年社会科教科書 上		日本文教出版
5	日本人の夜明け 在米一世ジャーナリスト浅野七之助の証言	長江好道	岩手日報社
6	ユニセフと世界のともだち		
7	世界銀行東京事務所 http://web.worldbank.org/		
8	占領下の日本 敗戦で得たもの、失ったもの		ビジネス社
9	子どもの学びを支える 一単元の授業21	長谷川康男	日本書籍
10	ウェブもりおか http://www.city.morioka.iwate.jp/14kyoiku/senjin/senjin/senjintati/asano.html		